



市場動向II Trends in the Market of Functional Ingredients for Anti-metabolic Syndrome and Weight Loss

抗メタボ・ダイエット素材の市場動向

編集部

毎年発表されている国民健康・栄養調査を見ても、ここ数年はメタボリックシンドローム及び予備群の該当者数に大きな減少はなく、血糖値や血圧、体脂肪率が高いなど生活習慣病発症の危険性が高い者は依然多いままである。「健康日本21(第2次)」では、高血圧や脂質異常症の改善などで改めて数値目標が設定されたほか、メタボ予備群・メタボ該当者を2015年度には08年比で25%減という目標が掲げられている。抗メタボ・ダイエット食品の市場に提案される素材の多くはエビデンスの充実した素材であるが、トクホ以外は効果を製品に表示することができないため、消費者に製品の特徴が伝えにくいという問題は解決されていない。そのため市場で売れているのは体脂肪低減、ダイエットを訴求する商品が中心だ。本稿ではメタボやダイエット向けに提案されている素材についてエビデンスを中心に紹介していく。

メタボの現状と対策・目標

厚生労働省が発表した「平成23年国民健康・栄養調査」報告では、成人の肥満者(BMI ≥ 25)の割合は、男性30.3%、女性21.5%。この割合は男女とも数年変わっておらず、肥満の解消は進んでいないものと思われる。平成20年度のメタボ該当者・予備群は1,400万人と推測されているが、ここ数年の肥満者の割合の変化がないことから考えても、5年後の現在でこの数字が改善しているとは考えにくいだろう。

本年4月から適用されている「健康日本21(第2次)」には、「生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底」が盛り込まれ、4疾患(がん、循環器疾患、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患)の予防に取り組むとされた。具体的には、高血圧の改善、脂質異常症の減少、糖尿病有病者の増加抑制、メタボ予備群・該当者の減少、適正体重維持者の増加(肥満・やせの減少)などが挙げられている。メタボ予備群・該当者は、平成20年度(2008年度)の1,400万人と比べ、平成27年度(2015年度)は25%の減少が、20~60歳代男性と40~60歳代女性の肥満者の割合を平成34年度(2022年度)には各3.2%の減少が目標とされた。

メタボ対策は栄養関連の学会では相変わらず中心テーマであり、5月に行われた日本栄養・食糧学会大会でも様々なタイトルが発表された。京都大学大学院の河田照雄氏は、世界レベルで深刻化している肥満問題を取り上げ、

食品の観点から肥満症やメタボに有効な科学的戦略のひとつとして植物代謝物の可能性について講演した。静岡県大院・食品栄養科の山田真実氏らは、中年男性の食べる速さと内臓脂肪蓄積面積との関連について講演。和歌山医大の井原勇人氏らは、レスベラトロールの脂肪組織の減少効果について検討し、レスベラトロールの1カ月投与により体重や皮下脂肪の減少を確認。奈良女子大・生活環境部の加藤玲奈氏らは、小児肥満の増加を背景に、出生時から幼児期における肥満の断片的調査の研究結果を発表した。

最近では、腸内細菌叢がメタボと関連しているという研究も発表されている。北海道大学の園山慶氏によると、肥満やメタボに特有な腸内細菌叢の構成があり、腸内細菌叢が肥満やメタボの発症などに寄与する環境要因であるなら、ある特定の菌の投与によってこれらの疾患を予防・治療できる可能性があるとして研究を行っているという。

上記のように多くの研究発表もあるが、実際マーケットで動いているのはダイエット、体脂肪低減を訴求した商品に限られるという問題はある。メタボ対策の中でも血糖値改善や高血圧抑制となると、食品ではトクホ以外は表示が認められないことや、既存の医薬品との競争(価格や効果の点で)で競り負けてしまうのが現状だ。

トクホコーラとトクホコーヒー

メタボ対策に関連する製品では、昨年はコーラタイプのトクホ製品が市場を

沸かせた。4月に発売されたキリンビバレッジ「キリンメッツコーラ」と、11月に発売されたサントリー「ペプシスペシャル」だ。どちらも難消化性デキストリンを関与成分とし、食後の血中中性脂肪の上昇を抑制するというもので、ともに販売目標を大きく上回る売り上げで、市場の関心の高さを窺わせた。

また4月には、花王が脂肪を消費しやすくするトクホ「ヘルシアコーヒー」を発売。コーヒーポリフェノール(クロロゲン酸)を1本あたり270mg含んでおり、エネルギーとして脂肪を消費しやすくなるという体脂肪が気になる人向けの製品。初年度70億円の売り上げを目指す。

コーヒー豆抽出物は昨年から米国でもダイエットでブームとなっている。コーヒー豆エキスを用いた体重減少の臨床データが発表されたことで火がついで、その余波が日本にも到達し始めている。トクホ製品ではないが、ネスレは3月に「ネスカフェ 珈琲の恵み 生豆茶」を発売した。1本にコーヒーポリフェノール(クロロゲン酸類)が「ネスカフェ エクセラ 無糖」の約2倍含まれている。米国のブームと花王のヘルシアコーヒー発売が引き金となり、コーヒー豆抽出物(クロロゲン酸)の認知度が高まっている。

抗メタボ・ダイエット素材の動き

ダイエット向け製品の市場は、製品の入れ替わりは激しいが、市場規模的には安定を維持している。ダイエット及びメタボ対策としての体重(脂肪量)減量のニーズに対応する素材は、食事を